

2015年2月27日

大塚製薬 第18回秩父宮妃記念結核予防功労賞を受賞

大塚製薬株式会社(本社:東京都、代表取締役社長:樋口達夫、以下大塚製薬)は、結核予防に大きな功績があった個人や団体を顕彰する第18回秩父宮妃記念結核予防功労賞において、大塚ホールディングス株式会社 元会長 故大塚明彦(2014年11月死去)が事業功労賞(個人)を受賞しましたのでお知らせいたします。2月27日に福岡で行われた第66回結核予防全国大会の式典には、大塚ホールディングス副会長 大塚一郎が代理として出席し受賞しました。

【秩父宮妃記念結核予防功労賞とは】

結核予防会は、毎年3月24日の「世界結核デー」に合わせて全国大会を開催します。また、半世紀以上にわたり結核予防会総裁を務められた秩父宮妃殿下のご遺志に報い、その御名を永く留めるため「秩父宮妃記念結核予防功労賞」を制定し、結核予防のために貢献された個人・団体を国内外から選考して、結核予防全国大会当日に、現総裁である、秋篠宮妃殿下のご臨席のもと、表彰しています。

【この度の受賞理由】

1960年代、欧米先進国の結核流行が一段落すると、途上国では蔓延を続けていたにもかかわらず、抗結核薬開発への関心は急速に萎えていった。大塚明彦は当時大塚製薬の社長として、結核はアジアの重大な健康管理の問題であり、より強力な抗結核薬の開発はアジアの製薬企業として必須の課題と考えた。そして1971年同社初の治療薬研究所の設立以来、社内の反対論を抑えて以後30年以上にわたり莫大な投資を行い、抗結核薬の研究・開発を続けてきた。

その結果、2002年に発見されたデルティバ(一般名:デラマニド)は、2014年、ついに新抗結核薬として日本、欧州で承認を得た。新規抗結核薬としてリファンピシリン以来40年ぶり、日本発ではカナマイシン(1958年)以来55年ぶりの技術革新となる。これまで難治だった多剤耐性結核の治療に光明を与え、さらに新しい結核治療への応用にも大きな可能性を秘めたデルティバの開発は、企業トップとして明確な意思と強い使命感があって実現したものである。

大塚ホールディングス代表取締役副会長の大塚一郎は「名誉ある賞を賜り、故人に代わり厚く御礼申し上げます。結核に悩む世界の患者さんの治療に役立てることは、大塚グループ企業理念である、世界の人々の健康に貢献することになり、大変嬉しく思います」とコメントしています。

大塚製薬は、世界で脅威となっている公衆衛生上の課題である多剤耐性結核に対する新規抗結核薬を日本や欧州で発売しています。今後はさらに、様々な国で多剤耐性結核を撲滅したいという長期的な目標を実現化してまいります。

会社概要

大塚ホールディングス株式会社 (Otsuka Holdings Co., Ltd.)

設 立 : 2008 年 7 月 8 日
資 本 金 : 816 億 90 百万円
代 表 者 : 代表取締役社長 兼 CEO 樋口 達夫(ひぐち たつお)
本 社 所 在 地 : 〒101-0048 東京都千代田区神田司町 2 丁目 9 番地
従 業 員 数 : 73 名 (2014 年 12 月 31 日現在)
事 業 内 容 : 持株会社

大塚製薬株式会社 (Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd.)

設 立 : 1964 年 8 月 10 日
資 本 金 : 200 億円
代 表 者 : 代表取締役社長 樋口 達夫 (ひぐち たつお)
本 社 所 在 地 : 〒101-8535 東京都千代田区神田司町 2 丁目 9 番地
従 業 員 数 : 5,821 名 (2014 年 12 月 31 日現在)
事 業 内 容 : 医薬品・臨床検査・医療機器・食料品・化粧品の製造、製造販売、販売、輸出
並びに輸入